

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
 発行者：野川台自治会長
 川崎市宮前区！
 TEL.
 協力：西野川小・野川中PTA、おやじの会
 一葉会、すずの会、青少年指導員ほか
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



あいさつ運動を始めてから8年目、子どもたちの思いに応じて「あいさつの輪」、
 さりげない「お節介の輪」の拡がりを通じて、信頼と支え合う“絆”づくりを皆さんの手で！

「言葉を交わす、心を交わす」

西野川小学校 校長 白坂雅妃子

私は山登りを得意とはしませんが、知らない人同士でも出会ったときに「こんにちは」とあいさつを交わし合うあの光景が心地よく大好きです。「こんにちは、お元気ですか？もう少しですよ、頑張って。」そんな心の声を心で受け止められる自然な状況に温かさを感じます。しかし不思議なことに、山を降りるとその自然な光景が消えていきます。どこでも自然体であいさつできたら、人は温かく接することができるのではないのでしょうか。そこを大切にしようとする「あいさつ運動」は、コミュニケーションのきっかけを作る大切な活動だと感じます。地域・保護者の皆様の口頃からのご協力に、心から感謝いたします。

皆様が温かくかける言葉は、子どもたちの心に優しさを届け、豊かな心を育みます。自慢の西野川小学校の子どもたちが、学校だけではなく地域の中でもあいさつを通して人と心を交わし合うことのできる姿を日指して、学校でのあいさつを大切にしていきます。

地域といっしょに

野川中学校 生徒指導担当 寺田 一成

野川中学校区での小中連携事業で各小学校へ中学校の教員がお邪魔をさせていただく機会があります。その際に、小学生が「こんにちは！」と元気よく気持ちのよい挨拶をしてくれます。地域の方にも朝のあいさつ運動だけではなく下校の見守り等、挨拶を交わしながら学校外でも見守っていただいています。野川中学校の生徒も挨拶をしてくれています。それは、各小学校や地域の方に小さいころから温かく挨拶を通じて見守っていただいているお陰でよい習慣が身に付いているのだと実感し、感謝をしています。

野川中学校の生徒の挨拶は気持ちがいいですねと来校した方に言われると、大きな声で皆さんに伝えたいになります。小さいころから地域の皆様に育てて頂いた

生徒がこんなにも褒められていますよと。

これからも皆さんと一緒に挨拶を通じて、子ども達を学校だけではなく地域で育てていけることに感謝をしています。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

“親子でうどん” おやじの会奮闘！

「麺棒から生地がはみ出すくらい押して！伸ばして！」、「もっと力を入れて！そうそう！」とおやじの会の名物おじさん秀ちゃんのいつもの名調子の大きな声が、調理室一杯に響く。今年も、「親子でうどんづくり」が6月上旬、西野川小学校で午前、午後の二組に分かれて開かれた時の一コマです。

親子30名参加。初めて自分で粉から、本物のうどんを作り満面笑みの子どもたち、久しぶりに子どもと楽しい時を過ごせてほっとしたパパ、これで夕食づくりの大変さがわかったでしょと言うママ、みんなそれぞれの思いの楽しいうどんづくりの一日でした。会長の佐藤さんも、美味しそうに食べている親子の様子を見ながら、「腰のあるうどんづくりには、パパやママの力が必要なんですよね！」とにっこり。

結成18年目のおやじの会は、楽しみをもっとうに、子どもたちに背中を見せながら、家庭、学校、地域のつながりを大切にしています。

(会長は、佐藤達博)



押して、伸ばして！



支え合う地域コミュニティへの期待

—— あいさつは、気づき、見守りのはじめ ——



新しい標語決定！

あいさつ運動
ひとことで みんなの顔に 花がさく

心のこもった標語づくり

あいさつの持つ不思議な力を上手く活かしながら、学校と地域が一緒になって進めているあいさつ運動は、今年で8年目を迎え、あいさつをし合う街、支え合う街に一步ずつ近づいていると感じています。

こうしたみんなの運動が、いつも新鮮で長続きするよう自治会が、西野川小学校の校長先生にあいさつ運動の標語づくりを特にお願ひし、今年で4回目に当たります。学校では今回も児童の「運営委員会」がリーダーシップをとり、7月に、1年生から6年生までの全クラスに標語づくりを呼びかけました。各クラスから出されたそれぞれ心のこもった魅力的な代表作品16点の中から、代表委員会があいさつ運動にふさわしい作品を選んで地域に提案してくださいました。

児童の思いに応えて

9月の自治会の幹事会において、そんな児童の気持ちを大切にし、みんなの顔に花が咲くような街づくりに繋げていくことに決まりました。その手始めとして年内にも提案された標語をシール化し各家庭に貼って頂くことにしています。

あいさつ運動は即効薬ではありませんが、これからの厳しい時代を迎え、笑顔で支え合う地域社会づくり(向う三軒両隣)の礎になると受け止めています。

☆あいさつの不思議な力 (西野川小学校のアンケートより)

- ・あいさつをすると気持ちいい
- ・あいさつをすると笑顔になる
- ・あいさつをすると顔見知りになる

☆あいさつの持つおだやかな機能

- ・こどもの健やかな成長につながる
- ・地域全体での子育てにつながる
- ・犯罪や非行防止につながる
- ・支え合うコミュニティ形成につながる

心と心を結ぶあいさつ

野川小学校 教頭 藤生 豊

「おはようございます。」と声をかけると「おはようございます！」と元気なあいさつが返ってきます。朝のあいさつ運動の始まりです。

あいさつは「心のオアシス」とよく言われます。気持ちのよいあいさつはお互いの心をすがすがしくさわやかにしてくれます。また、目と目を合わせて笑顔であいさつを交わすことで心と心が結ばれます。「おは

よう」「ありがとう」「失礼します」「すみません」が素直に出てくる子どもはとても素敵です。

あいさつの「あ」は「明るく」、「い」は「いつも」、「さ」は「先に」、「つ」は「続ける」となります。野川地区のあいさつ運動はまさに「あかるく、いつも、先に、続ける」活動です。これからも地域の方々と共にあいさつ運動に継続して取り組むことで、子どもたちと地域の関係を深めたり、子どもたちのコミュニケーション能力を育てたりしていきたいとおもいます。今後とも温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



野川小学校の毎朝のあいさつ運動

ふるさと散歩 1

時をこえ 子どもを見守る大いちょうの木

影向寺住職 加藤 浩照

野川と千年の境、小高い丘の上に影向寺その境内に大きないちょうの木があります。樹齢は600年ともそれ以上とも言われ、ずっと以前から野川の地にしっかりと根をはっていました。

このいちょうの木には不思議な言い伝えがあります。昔、日本がまだ貧しかった時代に、栄養状態が悪くなくてお乳の出ないお母さんが悩んでいると、どこからともなく不思議な光る玉が現れ、それを追いかけて行くうちに、影向寺にたどり着き、「この大きないちょうの木を削り煎じて飲めばお乳が出るようになる」とのお告げが聞こえ、その通りにしてみると溢れるばかりのお乳が出たと言う言い伝えです。現在では、ベビーカーに子どもを乗せた母親が、いちょうを見上げている姿を時々見かけます。この大いちょうはそんな母親や子どもたちをこれからも変わらず見守り続けていくことでしょう。



大いちょうの木



ひとことで みんなの顔に 花がさく

—— 人と人との心をつなぐ ——



まほうのことば！

西野川小学校 4年生

ぼくたちのあいさつ運動には、いいことがたくさんあります。あいさつをすると、元気になります。大きな声であいさつをされると、うれしくなります。ぼくは、あいさつすることが大好きなので、これからも続けたいです。
(斉藤まひろ)

ぼくは、教室に入るとき、みんながにぎやかな気持ちになってほしいなと思いながら「おはよう」と言っています。ふだん話さない人でも、声をかけにくい人でも、元気よく関わることができます。それをきっかけに、もっと仲よくなりたいです。
(城山 要)

ぼくにとってあいさつとは、人と人との心をつなぐ最初のことばです。「おはよう。」とあいさつをすることで、その人と心がつながって、ぐうぜん出会った人ともなかよくなっていくまほうのことばだと思います。
(中村虎士郎)



野川中学校の朝のあいさつ運動

必要不可欠なことば！

野川中学校 生徒会本部 3年 千葉 玄

「あいさつ」、それは、何をしても不可欠な言葉だと思います。あいさつができれば相手に嫌な思いをさせることがなく、お互いが気持ち良く過ごすことができます。一日の始まりにこのような気持ちになることができます。自分も、相手もとても良い事だと思います。また、あいさつはお互いを気持ち良くさせるだけではなく、コミュニケーションを取るためにも必要なものだと思います。

野川中学校では、毎週サミットメンバーや生活委員を中心にあいさつ運動を行っています。また、このあいさつ運動を通して、この野川中学校を明るく、そして活気のある学校にしていくことができれば、良いと思っています。

「あいさつ隊」結成

南野川小学校 教諭 安齋 瑛之

「あいさつ隊」を結成したのは夏休みの2週間前。企画・運営委員会が中心となり、毎朝正門と南門にわかれて、登校してくる子達に挨拶をしました。止まってお辞儀をして挨拶をする子、顔を下に向けてしまう子・・・あいさつ隊のみんなはこの短い期間の間にたくさんの挨拶を見ることができました。

「笑顔で挨拶すると気持ちいいね」、「元気に挨拶されると嬉しいよね」と明るく話す日もあれば「挨拶を返してくれないいやだな」と落ち込む日もありました。ある子は「いい挨拶だね」とほめられると、ニコッと笑って嬉しそうに昇降口へと人っていきました。

「おはようございます」の一言。10文字にも満たないその一言で、朝の気分は大きく変わる。そのことを、子ども達は身をもって感じる事ができたのではないのでしょうか。「あいさつ隊」の運動のきっかけに、挨拶が好きな子をどんどん増やし、南野川っ子の挨拶をよりすばらしいものにしていきたいと思っています。

防災訓練と近隣とのつながり

「災害は、忘れた頃に来る」という寺田虎彦の戒めの言葉を思いつつも、近年、「30年以内に80%の確率で起きる」という報道に接すると地震はいつ来てもおかしくないと感じている方も多い。今年の2月、おやじの会が音頭をとって、宮前消防署等の協力を得て、野川台自治会、西野川小・PTAが一緒になって親子や地域の人の防災訓練を実施。起震車や煙の体験、消火訓練、心肺蘇生等の講習会に参加した。体験したお母さんからも「本当に起きた時のことを考え、前もって家族で話し合うよいきっかけになった」や「いざという時に一番頼りになるのは、家族、隣近所だよ！」という声が聞かれた。阪神淡路大震災の教訓を思い起こし、日頃から隣近所であいさつを交わし、顔見知りの間柄にあることが大切と言える。



南野川小学校の朝のあいさつ運動

学校と地域のつながり



学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

“地域に定着した楽しい納涼祭”

今年で8回目を迎えた寿楽園の納涼祭は、地域の人のふれあいの場として定着。8月2日の当日は、天候にも恵まれ、600名を超える人が来場。野川台自治会も模擬店のボランティアとして多数参加し、お祭りの盛り上がりにも協力。

この日を楽しみにしていた利用者や家族の方も、久しぶりに屋外でテーブルを囲みながら談笑したり、舞台の野川中学生の吹奏楽に聞き入ったり、手拍子をしたりし、それぞれ思い思いに楽しみ絆を深めていました。一方、地域の方の中には、浴衣姿で来られた方も多く、お子さんやお孫さんと一緒に枝豆、焼きそば、かき氷を食べている微笑ましい姿が随所に見られました。最後は、恒例の寿楽園の新人を中心とした若さ溢れる“よさこいソーラン”でフィナーレを飾った楽しい一日でした。

(寿楽園担当、和田、西山、松平)



レベルの高い野川中の吹奏楽！



模擬店のお手伝い

地域の支援も得て関東大会に！

瞬発力と持久力が求められるバトミントン。窓を閉め切った真夏の体育館での練習は、体力と精神力との戦いとも言えます。そうした中で顧問の先生



粘り強さ

は、技術面と精神面に別れてアドバイスをしています。

今年、女子シングルスで3年生が、県大会優勝候補NO.1の相模原大沢中に決勝戦で敗れたものの、準優勝に輝き関東大会に出場しました。2回戦で惜敗しましたが、夢であり当初の目標でもあった関東大会で、どこまで自分たちのスマッシュやカットショットが通用するのかが測れて大満足！。

敏速で粘り強く練習熱心さに加えて彼女の今日があるのは、バトミントン部員の保護者の方々の労をおしまない日々の温かい指導・支援の賜物と感謝しています。

(顧問は、横尾、三留、恩納、岩崎の各先生)

2分17秒の標準記録を突破、全国大会へ！

陸上部は、ハードルを含む短距離、長距離、砲丸投げなどの選手50名近くの大所帯で、年々着実に記録を伸ばしています。



大健闘

女子の長距離(800m、1500m)の3人は、仲の良いよきライバルで、女子部員全

体を引っ張っています。今年は、その中の2年生が800mで全国の標準記録の2分17秒を突破し、全国大会に出場。惜しくも予選止まりでしたが、大健闘！。彼女は体力とスピードのある選手で、特にここ一番の時の集中力に優れています。部員の練習は、顧問の先生のメニューに沿い、毎日放課後、時には坂道を利用しながら地道に自己記録更新を目指しています。長距離の選手ですと普段の練習では日に10キロも走り込んでいます。

(顧問は、平川、大石各先生)

バレー部 初めて県大会出場！

市の大会で県大会出場が決まった瞬間“自分たちの時代で、初めて県大会に出場出来るんだ”と涙を流して喜んでいた女子バレー部員。部員の誰もが、中学に入って初めてバレーを始め、この2年間で仲間と一緒に頑張り、励まし合いながら、ここまでこられた感無量の思いが涙に秘められていることが伺えました。毎日、顧問の温かい、時には厳しい指導の下に、練習試合でも何かを学ぶ貪欲な姿勢、そうした中で、二人のエースのスパイク力、他の学校から攻撃的と言われているサーブ力、堅実なレシーブ、そしてチームの心をひとつにしたキャプテンと部長のリーダーシップが培われてきたと言えます。バレーの魅力は、個人の力とはもとより、チームプレーにあることを再認識させられました。

(顧問は、持田、友末、藤田の各先生)



チームプレー！

編集後記

あいさつ運動を始めてから、今回で4回目の標語づくりです。今までにない感覚の作品で新鮮さを感じます。児童の皆さんご協力ありがとうございます。引き続き「あいさつの輪」、「お節介の輪」を進めていきます。またこの号から脚土の歴史“ふるさと散歩”を連載していきます。

(日高、原、山本、後藤、辻本、岩本、前之園)